

学校になじめない お子さまの 「自信を育てたい」 お母さまへ



褒め方のポイント-3

その8 感謝の言葉も、褒め言葉

「ありがとう」「助かるよ」なども、
一種の褒め言葉です。


これに関して、
インターネットで参考になる記事がありました。

読みやすいように、改行は私が加えましたが、
以下、引用させていただきます。

行動心理学では、
相手の行動を変えてほしいときなどに

自分の感情を伝えるために、
「わたしメッセージ(アイメッセージ)」を
使うことを教えています。

相手に注意するときは、
「あなたがこうすると～」
「あなたは ～ね」など、



「あなた」という言葉を
使うことが多いのですが、

これでは、どうしても、
相手を責めているように聞こえがちです。

そこで、「わたし」を、主語にして、
自分の感情を伝え、
相手の助力を求めるのですが、

この話し方を「褒める」時に使います。例えば、

「ホワイトボードがきれいになっていると、
セミナーがすぐに始められて、私は、
ほんとに気持ちよくスタートできます。」

「お母さんうれしいわ。
おもちゃが片付けてあると、
お掃除がとっても楽なのよ」

などです。

ご参考までに付け加えるなら、
次のように、
三つの要素に注目します。

- 1 「相手の具体的な行動」
- 2 「その具体的な影響」
- 3 「そのときの自分の気持ち」

三つの順序は、
特に決めなくても構いません。

こうすると、お子さまは
具体的に行動しやすくなりますので、
スムーズに協力してくれます。

また、お子さまが、
実際に行動していなくても、
「予防的に」使うこともできますよ。


その9 第三者も褒めていたと伝える

「〇〇ちゃんは、いつも気持ち良く、
ごあいさつができて偉いねって、
隣のおじさんが言っていたよ」

「〇〇くんは、
妹の□□ちゃんの面倒をよく見るね。
□□ちゃんも、
お姉ちゃんと遊ぶのがいちばん楽しい
と言ってたよ」

「〇〇ちゃんは、
友達にとっても優しくていい子だって、
先生も言っていたよ」

「毎日、しっかりと
犬の世話ができてすごいね。
お父さんも褒めていたよ」



その場にはいない
第三者も褒めていたという言い方は、
とても真実味があるものです。

自分がないところでも、
「しっかり褒められていた」
・・・と知ることは、
誰でも、嬉しいものです。

なんとなく、いろいろなところで
褒められているように感じます。

お子さまの自信が育つという
嬉しい効果もあります。
健全な自己肯定感の成長です。

大人でも、「部長も褒めていらしたよ」
などと言われれば、けっこう
嬉しくなるものです。

これは、古今東西、実行されている
とても効果的な褒め方なのです。

おまけに、褒めてくれた人たちとの
人間関係がスムーズになります。

つまり、

「おじさん」

「妹」

「先生」たちと

「お子さま」との関係が

一気に向上する効果もあります。





その10 その子の思い入れの大きいことを褒める


私たちは、誰でも、
自分なりに思い入れを持って
取り組んでいるものです。

誰でも、それを褒められることが
いちばんうれしいのです。

例えば、八百屋さんは
新鮮な野菜をそろえることに
全精力を傾けますから、

「新鮮な野菜が多いね」
と言われれば、とても喜びます。

美容師であれば、
カットの腕を褒められることが、
うれしいでしょう。



画家なら、
よい絵だと褒められることが、
とても嬉しいはずです。


お子さまも、お母さんも、
みんな同じです。

自分の思い出の大きいことを
褒められるときが、
いちばん嬉しいのです。

それによって、自分自身に対する
誇りや自己肯定感を
大きく育てることができます。

ところが、多くの子供たちは、
自分の思い出が一番大きいことを
褒めてもらえることは、
あまりないようです。

それはなぜでしょうか？



ほとんどの場合、
お子さまが熱中することと、
お母さんが期待することとは、
全く異なるからです。

次のような話があります。

=====


電車や新幹線が
大好きな子がいました。

その子の頭の中は、いつも
電車や新幹線のことではしゃいでいます。

作文を書いてもスピーチをしても、
電車や新幹線のことです。

絵を描けば
電車と新幹線が必ず出てきます。

休み時間には
紙で電車を作ったり、
それを走らせたりしています。



電車の種類や特徴なども
しっかり熟知していました。

でも、電車や新幹線のことで
親に褒められたことは
ほとんどなかったようです。

お母さんは、あきれるばかりでした。


お母さんの期待は、
たくさん勉強したり、
積極的に授業中に発表したり・・・、

学校の成績に関することばかりを
その子に、期待していたからです。

ですから、お母さんは、
電車や新幹線のことで褒めることなど、
思いつきもしませんでした。

担当の先生は、電車や新幹線について、
その子を褒めてほしいと提案しました。

=====



電車や新幹線のテーマこそ、その子が
いちばん自信を持っていることなのです。

「これなら誰にも負けない！」と、
その子は、心の中で思っているのです。


その子の大切な「思い」を、
お母さんが褒めてあげれば、
「確信」や「自信」に変わるのです。

あなたも、少し考えてみてください。

電車や新幹線の種類や特徴などを
しっかりと調査して、
それらのデータを熟知する能力。

これは、「勉強」に、
とても役立つものです。

そして、そのお子さまが、
一つのことに熱中できること。



このこと自体が、
とても素晴らしい資質です。

誰に言われたわけでもなく、自分自身で
「やりたいことを見つけて」さらには、
「突き進むことができる」こと。

これは、「自主的な探究心」そのものです。

まさに、「豊かな人生」を切り開く
基本的な才能なのです。

ですから、
褒める価値は大いにあるのです。

お子さまが「熱中していること」や
お子さまの「思い入れの大きいこと」に、
しっかりと、注目してください。

お子さまは、

「ウルトラマン博士」かも知れません。

あるいは、「漢字博士」かも知れません。

「ディズニー女王様」かも知れませんね。

それらを、ぜひとも

褒める材料にしてください。

大人の価値観からだけでなく、

その子の立場に立って褒めること。

それが、お子さまの自信を

大きく育てます。



お子さまの学習、習慣づくり、将来の展望など、
どんな小さなことでも、気軽にお電話下さい。

「スタディ・コーチング・ラボラトリー」代表の
福田秀一が、直接、お話をうかがいます。

ご連絡は、こちらです。

e-mail : a_totalperson@yahoo.co.jp
(PCにて、24時間受付)

